

吉
蘇
日
記

下

848
200

天
天



国立国会図書館 タイトル『吉蘇日記』 請求記号 848-200

ガラス使用

諏訪記

宣徳三年三月二十九



八月廿一日寒暑針六十九度午前六時五十分福名駅ヲ
發シ是ヨリ諏訪ニ到クントス市街約尽トスル頭坂ヲ
リ上リテ山麓ニ出ツ山峽西ニ比スレハ漸クニ潤カラシ
トス坂ヲ上レハ日義村ナリ此回中原檢守兼遠ノ館
跡アリ東鑑治弟四年九月ノ条ニ中三權守兼遠懷義
仲而道于信濃國合養育之云トミエテ人ノ能ク知ル
所ナリ今ハ田圃ニシテ何ノ面白クモナキ処ナリ夫ヨリ田
圃ヲ過キテ又坂アリ車ヲ下リシニ今朝歌ヲ發スル際車
ニ掛ケタル絨褥ナシ車夫大ニ狼狽シテ披索セシモ見エ



又想フニ前段ヲ下リし際遠下セシヲ知ラザリシモノナラシ
 既ニ半里程来リシヨリナレハ之戻ルベクモアヲサシハ夫ナリ
 ニシテ車ヲ走ラセテ宮ノ腰ニ入ル
 駅南ニ樋口波席兼光殿跡アリ樹木多シ兼光ハ中三権
 守兼遠ノ長子ニシテ兼仲ノ四天王ト稱スル一人ナレハ人
 人知ク知ル所故ニ替ハセス
 駅ノ中程ニ至テ車ヲ換フハ駅ヨリお六梯ヲ登ク家多
 シ暫ク憩フテ又散ス駅東田圃多シキテ川ヨリ川南
 ハ木曾兼仲ノ城址トテ今モ字ヲ宮原ト云フ格畔ニ碑アリ
 リ又兼仲手洗水アリ是モ碑ヨリ一掃世記ニ左ニ川を

隔テ兼仲ノ城址あり其入口ニ一六石碑を立リ其摺本を
 德音寺ニおめしよ一お摺のともし候ニ田ありも傍
 のお名悪めとも詮方なりと云ハリ行旅中ハおはしうハ往
 来アリトテ一実シタリ
 木曾殿ノ城址ニ跡キテ一敗辱キヲ今井四郎兼平ノ館
 ト云土平ノサマナド如何ニモ邸址ト云フ様ニエタリ兼平
 ハ兼遠ノ次男ニシテ兼光ノ弟ナリ是モ四天王ナレハ人ノ
 知ル所ナリ
 橋ヲ過ク德音寺橋ト云旧寺ノ門前ニ架スルヲ以テ也
 德音寺ハ木曾殿ノ菩提所ナリト稱シテ兼仲ノ碑アリ

ト云至ラス又ハ歇ニハ幡宮アリ仁安元年木曾義仲ハ
ハ社前ニ控テ元服セリ云傳フヨシナレド是モ至ラズ
是ヨリ行クイ數丁右折シテ川ヲ隔テ、兼平ノ部址ヲ西
南ニ見ル所ニ至レハ巴御前第蹟ト云処アリノ大石ア
リテ川ニ向ヘリ巴ハ兼遠カ女ニシテ義仲ノ妻ナルハハ唯
モ知ん故ニ一二セス是ヨリ迂曲シテ川ニ沿ヒテ山間ヲ
過ク約十數丁ニシテ新原歇ニ至ル歇前川ヲ色ク河
原ヨリ鳥居峠ヲ見ル藪原ハ其山麓ニテ歇中ヨリモ
鳥井峯ハ終ニユルナリ

飲食店
梯店多シ

ハ歇ハ前後道ニテ
梯店多シハ六梯ハ木曾山中

ノ名産ニシテ畢竟山間田畝乏シケレハ農事ヲ以テ生計
ナシ難キヨリ工高ニヨリテ治業トスルナレバシ名産同舍
ニ木ハ棟梁トシムを以テ製以トアリ棟梁ニムミバリ
ト訓シタリ思フニ是ニムミバリヲ云ナルバシムミバリハヤ
シヤ木曾アブラシ信州デ州ヲノレ日光ヲノレ又ヲノレ州換
ヤニムミバ松前其他諸國方言多シ赤楊一種ニシテ所ニ深
山ニ生ス其材ハ褐色ニシテ極テ堅軟ナリ故ニヲノレ嶺ノ名ア
リ日光ニテ木研ヲ製スルハ材ナリト又仙臺山形産ニテハ
雪中ニ用テ積ヲ造ル其堅硬折ケサルヲ以テナリ又之ヲ
漆料ニ用テト云日本産物志信濃下ニハ糸アリ就ラ看ん



山嶺ニテ奈良井駅トノ界ナレハ一ニ橋井峠トモ云ハリ
ト又ハ地ハ天正十年木曾義昌由田勝勢ト山上ニ開
ヒシ古戦場ナリ

嶺ニ登リテ後ヲ觀ミシハ敷原駅ハ是下ニヤリテ近
ク鐵橋モ辨スト云ベキ景況ナリ余カ態ヒシ家ナド
其動靜ヲミルニ足りタリ又西ニ御嶽ヲミルトイハ此
雲アリテミヘサリシ

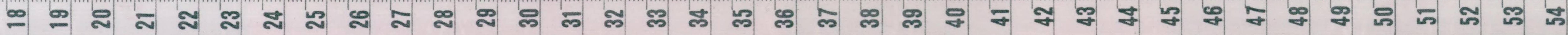
嶺ヲ下ルセハ下ニシテ大ナル七葉樹林アリ橋井嶽ニ航
ズレテ七葉樹嶽ナリナド笑ヒシ如ク曲折シテ山下シ
ハ奈良井駅ナリ又入口ニ鎮神社アリ松木嘉勢中



ニ樺ノ大樹アリハ秋モお六掃ノ鬻シ家アリ然レモ大半
ハ指物師ニテ昭挽ノ木地多シ往コハ松モミヘタリ名所園
舎コハ地ノ産物ニ鮭鱒ノイアレハ之ヲ問フニ古ヘアリシヤ
否詳ナラサレモ今ハ奈良井川ニテハ鮭鱒ハ絶ヘテナク
其形ガモ知ルモノアリヤルベシト答ヘタリ

駅ヲ出ツ敷下ニシテ奈良井川ニ沿フテ行ク此川ハ駒ヶ
嶽東ニ發シテ奈良井川トナリ北流シテ犀川ト稱シ
諸川ヲ合シテ丹波郡界ヲ經テ千曲川ニ入ル
半宮嶽ニシテ坂アリ登リ登サントスル所ニ神宮神社アリ

老松森ト如何ニモ神サビタリハ社ニ因リ坂ヲ御坂ト云
木曾永下ニハ社ハ夫ハ御坂ノ由君ナリト云フハ村ノ名ナラシ山椒島ト云フ



を繋ぐ石組山をこり又奇石をいさぐしものありトミハシカケハナシ

牛山ハ二三、四、三

川取を急ぐたへは地ニ温泉アリシヲ以テ熱川ト名ク
ト云ヒ或ハ中古マテ諏訪ノ神事ニ懸垂割ヲ供シタルヲ
以テ所ノ名トセリト執シ是ナルヤ未ダ知ルヘカラス
曰取ノ由桜沢ニ至ルハ風ニモお六梯ヲ繋ク家アリ一
ハ取ハ甚ク陋譯ナリ半里許ニシテ掃捨籠ニ連櫓之
を繋ぐニ釣魚の袖を引くとアレ左ノ之甚クモミハナリ
シハ地ハ山麓ニシテ左ニ奈良川^井アリ以前ハ山上ニ往
還ノ街道アリテ小坂ヲ越ニテ境橋へ出エガ今ハ村中ニ
テ摩川^{奈良}井川^端ニ接道ヲ設ケテ山足ヲ巡リテ行路ヲ

比馬ハ三四、一、五

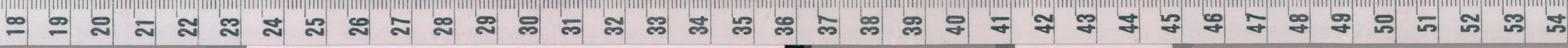
便ニセリ故ニ棧道ノ口ニテ道鏡ヲ収ム棧道ヲ色キテ山
麓ニ出ツレハ櫻川橋アリ又境橋ト云ハ橋西ハ尾州領ニ
シテ橋東ハ杉本領ナリト境ナシハナリ此橋長十二間ニ
シテ西六間ハ尾州公東六間ハ杉本候ニテ修造セリト
云又急合ヨリハ熱川ニテ廿二里餘ノ向ノ山峽ヲ木俵谷
ト称シ西山相迫リ坂路崎嶇タルノ前ニ記シ来ルカ如
ク
本山殿ニ入りテ午鉢ス時ニ午時零三十分ナリハ取ニ馬
車アリシカ乗合ニテ完甘ケレハ猶人車ヲ雇フテ午後
一時十五下ハ取ヲ巻セリ敷丁ニシテ新道修造ノ為メ



測量セルヲモタリ恰モ小沢川畔ナリ故ヲ上リテ村ガヲ
ヨキ田畝ニ出テ行ク彩丁新道ヲ修造シテ堤防橋梁
ヲ設ケタル處ナリ況日ノ雨ニテ新堤ヲ崩像セシ處所
ナリ是地ヨリ山峽漸ク廣ク北山漸次ニ退キタリ
洗馬駅ニ至ルハ既ハ頗ル疲弊ノ体ナリテ田本陣駐
本陣ナルベクト思フ家依止トシテ田ノ如ク想フ大
厦ヲ縮小スルハ既費用ヲ要シ其益ナケシハ其腐朽ヲ
俟ツノ意ナルベシ又其他客店多クモ之モ依然トシテ
旧ノ如ク家毎ニ何處ト記シタル看板ヲニ階ノ格子外ニ
掲ケ連子タル景況ハ廿年前ノ旧觀ヲ存セリ又駅ノ中央

右側ニ小學校アリ其構造ハペンキ塗ニテ頗ル大ニ屋瓦上
壯士ノ馬ヲ洗フノ像ヲ安セリ旧觀疲弊ノ景況ニ慍ハス
大ニ目立タリキ

駅東ニ長仲馬洗水アリ太田清水ト云行テミガリキ
又驛東ニ善光寺街道アリ中山道ハ右ニ折レテ陸田中
ヲ過クル數丁ニシテ栲樹原ニ出ツ右山ヲ離ル、約五六
丁左ハ小山既ニ尽キ所謂松本平ノ南端ナリ十數丁ヲ
過クシハ右山モ亦遠ク十數丁ヲ隔テ、全ク原中ニ入ル
此原ハ小笠原大膳大夫長時甲州勢ト戦ヒシ處ニシテ
人口ニ膾炙スル所ナリ以原モ現今ハ大平崩壁シテ所ニ



松林アル所ノミ未用ノ地ナリト是ヨリ大門村ニ至ル向
ハ粟稗大豆ハ勿論黄芋苗香川芋水楊梅半夏等ノ
草草ヲ培養セシ処最多シハ街道ノ右ニ一本松アリ
附舎ノ伝説アリ贅セズ大門村ニ入ラントスル右ノ山際ニ
家屋敷戸アリ人ノ居住スヘキモノナラザルカ如クナレハ之
ヲ同フニ山上石硬石多シ故ニ石ヲ采テ石灰ヲ製スルハ
屋ナリト云ヘリ

大門村ノ入口ニ阿禮神社アリ今ハ幡宮ト称ス是延喜式
神名下祭事於三座 阿礼神社 トアル是也ト云来
社多シ村落ハ甚々長ク數曲シテ塩尻駅ニ入ル駅中

ヲ一曲シテ道幅廣ク街上漸クニ阪ヲナセリ中央ニ至テ
憩フ時午宿ニ時

人車ヲ雇ヒト駛シテ百方人ヲ走ラセタルモ車ナク止ムヲ
得スシテ漸クニ荷持人足一人ヲ雇ヒタリ駅中ノ寂寥
知ルベシ暫ク憩フテ宿ニ上ル瓜先登リニシテ漸ク冬
四五丁ニシテ駅ヲ過キ新道アリテ左ニ入ル是客棧新
道ノ道ニシテ旧道ニ比スレハ下郷訪ニ達スルニ一里半程
遠ニ故ニ荷車ヲ除ク外多ク往還スルモノナレト云
リ余等モ歩行ノイナレハ半雪モ近キヲ吹スルナレハ舊
道ニカレリ杖澤村ヲ過ク天正十七年武田信玄ト松

本ノ内五原ト開ヒタル古戰場ニシテ旧村ニ首塚アリト
云々村落モ甚々長シ村ヲ出テ如丁間ハ恰モ東海道ノ
如ク松ノ行樹アリ新道ハ山腰ニツキテ又走り来リテ旧道
ヲ横キリ右ニ去リ又来リ横キリテ左ニ去ル其間所々
人家アリテ右ノ方ハ伊奈郡ニ界スル小山起伏セリ其後
ニ新道ハ巡り来リテ旧道ニ合ヒ暫ク直行シテ遂ニ右
ノ山腰ヲ巡リテ去ル益尾ヨリ約一里半許ニシテ芝村
ヲ至リテ憩ニス又半里餘ニシテ峠ニ至ル浅田村アリ
其處ヨリ富士ヲ正面ヲ見ルト云然レ此日ハ午後天陰
翳シテ見ル終ハス暫ク峠ニ憩フ新道ハ山腰ヲ巡リテ

同ヨリハ半里程南ナリト云益尾駅ヨリハ直千ニ登リ段々
リト雖モ峠ニ至ルニテ甚キ峻路ナク殊ニ頂上ヨリ二三
同ノ斜面ハ緩ナリシ

サト一氏ノ旅行便覧ニハ峠ハ海面ヲ抽ク一三百四十英尺
アリ峠ヲ登リテ^{下海}右ノ方ノ高所ニ上レハ左ノ遠望アリ
足下ハ板田湖ニシテ其周囲ハ村家ナリ

湖水ヲ目田セル山ノ中ニテハ八ノ岳ハ最高ナリ
湖水ヲ打越ニテ右ノ方ニ富士山ハ近山ノ上ニ見ユ
夫ヨリ右ノ方ニ無之スルハ駒岳ナリ
又遙ニ後ノ方ニ方リテ白根峯ノ頂上ヲ見ル又其後

ニ御嶽ノ頂上ハ僅ニ見ル得ル

背面ニハ松本ニ界シタル長キ峯ニシテ

是等ノ記事アルモ諏訪湖及其周囲ノ村落ハ勿論ハツ
岳ノ一角ハ雲中ニ見エタルノモテ其他ハ見ル能ハ
サリシハ峠ニテハ冠摩郡ニシテ是ヨリ諏訪郡ナリ
夫ヨリ下リ阪トナリテハ登リ阪ニ比スレハ頗ル急ニ十數
下下リテ大岩所ニ至リ下リ登セハ四ツ屋村ナリ字坂下ト
稱スル処ニ人力車アリテ往還人多クハ是ヨリ上下スト云フ
ヲ以テ素モ荷物^持人^足ハ此處マテ雇ヒテ是ヨリ車ヲ馳セト
思惟セシニ此日ハ生憎一臺モナク止ムヲ得^ズテ下下リテ

歩行スルニ次シ人足ニモ約シタリ

四ツ屋ヲ過シキニ二ノ村落ヲ經テ新道ニ舍セリ是ヨリハ
平坦ニシテ一直線ナレハ新道ニ因リテ田圃ヲ過シ東橋
ニ至レハ橋アリ諏訪ノ原田ヲ過シキ戸川ニ至レハ渡^モ板
橋アリ堤防ニ備物ノ行樹アリ下下リテ春ノ宮ノ社前
ニテ是ヨリハ下アリト云

上御坊ハ二三

下御坊ニ入ル入口ニ小川アリ街上ヲ過クル三四下ニシテ右
ニ上御坊ヘハ街ヲ過リテ其角ニ人力車店アルハ入テ車ヲ
留メテ暫ク憩フハ時午後六時三十分ナリ
橋ヲ点シテハ風ヲ巻シ湖邊ニ沿フテ車ヲ馳ル左ハ小

山連亘し南ニ向テ走レリ夜中ナレハ見ル所ナク一里十一
丁ニシテ上ノ諏訪ニ入り二三丁ニシテ右側ナル牡丹屋岩波
ニ泊ス其客店ハ東京出發前一二ノ知友ニ泊リテ宿泊ノ
一ツ鳴シ置タレハ家信ナド来東アリテ落手シタリ
草木ヲ整理シテ入浴ス此湯源ハ浴室ト厨トノ中間ニ方
三尺程ノ井アリテ之ヲ浴室ニ輸シ或ハ厨用トナスト云
ハ地ハ有名ノ温泉ニシテ高島町ニ五ヶ所下諏訪ニ三
ヶ所アリテ此町ハ向側ヨリ山ノ根マテノ間ニ涌出ス夫レヲ
引用セシメナルニ近頃ハ堀抜井ノ如クシテ何方ノ地ニテモ
温湯ヲ得ルト云是ハ後ニ聞タルノナレハ果シテ然ルヤ

否ヲ知ラス

○九月一日天陰ナレテ七時早針ヲ了へ上諏訪神社ニ詣リト
ス車ヲ雇フニ車ナシハ日曜日ナレハ今朝ハ裁判官病
院ニ奉ル松本ニ到リシヲ以テ悉皆出ラセリト云然レハ町
端ニ至ラハアルベクシレハ時間ヲ費スベシト云モガ素ヨリ不棄
内地ナレハ業内ノ為メ雇フナレバ時晷ノ移ルハ止ムヲ得ス
ト思惟セシニ此家飯田ヨリ来リタル車夫ノ泊セシカ案内
ハ知リタリト云ハハ何ト云ヒシカハ幸ナリトテ道ニ其車ニ
乗リテ此家ヲ出ツ

高島町ハ市場ナニアリテ東西一町南北十二丁アリテ一千五百

九十餘戸人口七千九百餘アリト云商店ノ暖簾十ド古凡
シ存シテ維新前ノ思ヒヨシタリ然レモ又洋服店呉服店
十ド買物ヲ多クシテ列子タルハ其賑ヲ新ニセリ市
街ノ中央ヲ過キタル歌田坂へ入ルノ道アリ 湖水ノ赤ニ高色
坂ノ下ニ在セリ
市街ヲ過クシハ金沢葛木等ノ坂村ヲ經テ甲州ニ至ルノ
道路ナリ左ニ大川峠ニ至ルト云道アリ

ハ甲州街道モ新道ニシテ市街ヨリ三五丁ニシテ沿中ニ道ヲ
築キタル處アリ築架ヲ敷キテ土ヲ覆ヒテ道トナセリ車夫
云々地ハ底無シト云ハ道路終架ノ際ハ地ニ橋梁ヲ架セシ
カ其橋柱漸ク地下ニ埋レ遂ニ没入セシカハ如斯ク築架ヲ

以テ之ヲ支ヘテハ道ヲ終造セシナリ然レモハ道モ丁年ヲ
出テ又シテ凹没スルヲ以テ又終架セサレハカラス故ニ今又旧
如ク山際ニ改築セントノ議アリト云ヘリ勿論底無シト
云地ハ特ニハ地ノミナラス他ニモ往々アリト云ヘリ
ハ辺ニテハ左右田畝ニシテ 右 湖面ヲ距ル約五六丁湖面ヲ
隔テ、伊奈郡ニ連続スル一帯ノ山アリ其間如道ノ村落
アリ其山ノ西南ニ方リテ葎鬱々タル森林アリ是上祇祈神
社ナリト云左ハ山際ヲ距ル僅ニ一二丁是下祇祈ヨリ南ニ
向テ走レハ山脈ナリ其山終ニトスル條ニハツ岳古岳
ハタリ南ハ両山間ノ平面ニシテ甲州界ノ小山アルノミ其南



山の上ニ富岳ヲミルト云ハ此日亦雪アリテミル能ハサ
リシ

数十丁ヲ越テ村邊ヲ過ク又行ク処丁右ノ方ヲ顧ミルニ
上羽田ノ社ハ既ニ後顧スルカ如クナレハ車夫ニ向フニ神宮
ノ道未タナリトテ折車ヲ止ル然レモ甚タ迂路ナリト思
惟セシカハ車ヲ止メテ里人ニ問フニ既ニ十数丁過キタリト
云故ニ此下ハ戻リタレモ登ニ小径ヨリ達スベシト云フヲ
以テ小径ニ入ル素ヨリ田圃ノ小径ナレハ車ヲ通セヌ小溝如
クアリ車ヲ掲ケテ過ク神社ニ達セトスル際小川アリ此
橋モ車ヲ通セサレハ車夫ヲ助ケテ橋ヲ過ク事遂ニ中絶

村ニ入ル車夫案内セト云ヒシカ甚不案内ニテ後ニ聞ケル
大約一里餘迂回セシト云

木華表アリ村中此下ニシテ上郷神社ニ至ル橋アリ木
華表ヨリ階段アリテ少ク下リ敷石ノ向此間多クキテ
田圃ヨリ此處ニテ老婆ノ飴錫ヲ鬻クモノ左右ニ
アリ田圃ハ三十九回アリテ三十九所ノ末社アリ其神名ハ
ハ廊ノ左右ノ上ニ繪馬掲ケタリ約廊ヲ七分過キ先以
神樂殿ヘ下ル石階アリテ正門ニ對シテ神楽殿アリ
左ニ折レハ神社ノ正門ヨリ彫刻精妙其左右ニ橋 著
ノ寢庫ヨリ門内ハ方一尺五寸許ノ敷石アリ御社ハ北向

ニテ是モ刺繡精緻神像ノ最ニ様敷アリテ欄干アリ
神像ハ樹木擁圍シテサスガニ神サビタリ御供所ハ拜殿
東ニアリ左^右ニ廊アリテ右廊ハ曲折シテ正門ノ正面ニ
向ヒ其後キニ祈禱所アリ

一拜シテ後ノ方ニ至シハ神社ニ向ヒテ北ノ方ニ以テ前ノ後
摩堂アリ強キテ繪馬堂アリ其左ノ方ヨリ社務所ニ
至ル

右廊ノ端祈禱所ノ前ニ石垣アリテ^{其上}玉垣結ヒテ冬青ツヨ
樹二三株ヲ植ヘタリ何由由病ノ見^レトヤ夫ヨリ社務
所ニ至リテ神嘗及繪圖ヲ購フハ社務所ノ縁側ヨリハ祈

禱所ニ廊アリテ強キタリ是社内ノ概畧ナリ

サテハ神社ハ延喜式十神名下信濃園四十八座諏訪郡二
座^大南方刀美神社二座^大神トアル一座ノ社ニシテ一座ハ
下諏訪ニアリ祭神ハ健甕名方刀美命八坂刀賣命ナリ
旧事記ニ天孫降臨時大己貴命弟ニ之子健甕名方命歟
拒天孫於是経津主神遣岐神逐之健甕名方命逃到信濃
園諏訪郡迫甚而請曰願得此郡以為父母之讓不為天神
之怨而作吾居則吾豈奉背天孫哉因茲経津主神以諏
訪一郡附于健甕名方命是即諏訪明神也云々トアル是
ナリ其他ハ神ノ一ハ諸書ニアルト云々ト云々トアル是

ハ社領千石ニシテ社人五人祝部ハ社僧モ五坊アリト
云ヘリサテ亦ハ清社ノ祭禮ハ人ノ能ク知レル如ク一十年
七十五度アリ就中三月酉ノ日ハ大祭ナリ其月ニ酉ノ日
ニツクレハ中ヲ用井ニツクレハ初メ用フ麻頭七十五廻
ニノセ神前ニ供ス又鹿肉ヲ別ニ調理シテモ備フ故ニ社人
モ肉食セルヲ以テ神ノ著ク受ケテ食スレハ穢トシトテ
社人ニ就テ之ヲ受クルモノ多シ又祭典ノ中ニ箇粥ノ神事
アリ正月十五日ニ神前ニ竈ヲ建テ釜ニ小豆粥ヲ煮テ若
ノ管ヲ五六寸ニ切リテ米麥其他作物ノ印シテ其釜ニ
入レテ其事ヲ掌ル神官傍ニ居テ箸ヲ以テ其管ヲ出シ

其中ハ米粒ノ入タル状ニ依テ其物ノ豊凶ヲトス是ク箇粥ノ
神事ト云是古ヘノ米占ナルモノ、遺ナリト云余カ郷國
石巻神社及越後國越比古神社河内國枚岡神社近クハ上野
國橋名神社ナドニモアリト云橋名ニテハ諸作物ノ名ヲ書ク
ルノ板ニ彫リテ毎年其下ニ粥占ノ豊凶ヲ書シテ農民ニ領ッ
ト云キ事ヲ里人ニ問ヒタルニマシメナリテ其トノ能ク中ルヲ
証セリ

社ヲ出テ、北ノ方ニ至ルニ木華表アリ其側ニ御柱ナルモノアリ
リハ清社四方ニアリテ是ハ北ノ御柱ナリ此御柱ハ七年ニ
一度之ヲ取換ルノニテ其際大祭アリ毎寅申年ナリト云

其祭式は甚々敬重を以て四月申寅ノ日ヲ交互ニ用ニ其祭
式ノ圓ハ田廬ノ脩馬中ニヤリテ先神官等行列ヲ正シテ先行
シ次ニ沖柱ニスベキ材木ヲ牽来ル四幕政中ハ郷村家ハ勿
論高遠侯ヨリモ人数ヲ出シ弓銃炮槍長柄号ニテ登固
慶重ナリシト云込以慶重ノ後ハ諸村落ニテ槍ヲ出ス村
アリ旗ヲ出ス村ハ鉄炮ヲ出ス村等アリテ田ノ北ヲ行列
リト云下ノ郷村ハ沖柱祭モ同様ナリト云又ハ沖柱止モ
ハ郷村ノ神社ハ何方ニテモアレモ上郷村辺ニテハ皆立ル
モノニテ高島藩士トドノ部ヨリ勅語セリ稲荷其他ノ社
トドニモ立ルト小沢席明氏ノ語ナリシ

北ノ木華表ヲ出テ、猶北ニ歩スレハ高島神社アリ東向ニ
シテ木華表アリ持取ノ左右石燈籠アリ持取ハ郷村家
ハ徽跡アル幕ヲ張リタリ一抔シテ右ヲ觀ミレハ事務所
アリ想フニ郷村家ノ祖先ヲ祭リタレモノナルベシ
度リテ神系取ノ例ニ至リミルニ沖手洗井アリ田廬ニ入ラシ
トスル左ノ方^前神系取ニ勅使殿アリ田廬ヲ過キテ原路ニ出
ツ右ノ方ニ巨大ノ学校アリ是旧来ノ神宮寺址ナリト云
神宮寺ノ創建ハ詳ナラサレモ中真ハ飯田筑前入道ニシ
テ真言宗ナリシト云又維新前ハ神宮寺ハ大ナル金堂アリ
五重塔アリ釈迦堂アリ大師堂其他諸堂アリ坊五ツアリ

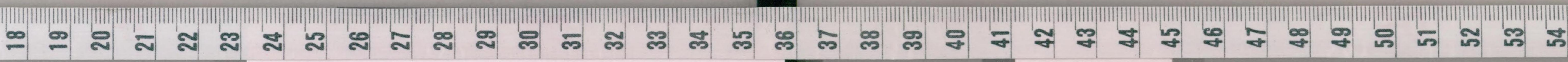
リテ頓に蔽ナリト云ヘリ

又鐘堂の塔ノ側ニヤリ永仁二年ノ銘アル鐘アリト聞クテ
以其鐘ノ存否ヲ問フトスルモ社務所ニモ小使ノモナリ
シヲ以テ帰路廊下館ニ充邊ニ向ヒシニ神宮古住殿ハ
維新ノ際京師ヨリ来レル人ナリシカ復飾シテ廢寺トナ
リ其際鐘ノ鑄潰シテ半鐘ニ固ク得申ハ中洲村ニ使用
セリト云ヘリ可惜ト云

以時小雨アリ急キ車ニ上リテ是七奇ノ社壇ノ雨カト云
テ帰路ニツシ社壇雨ノ一是ヨリ途ヲ左ニトリテ田圃ヲ
過ク一村家アリニ小川ヲ過キテ甲州街なるニ小學校アリ

リニ向ヘニ出ツ是ヨリハ原路ヲ經過シテ客舎ニゆルハ際
所々一見シタキ箇所妙カラサレモ先キニ車夫ハ土時
ニ飯田へ帰ルヲ以テ其間ニ往復スヘキ約アリ止ム得
ス直ニ帰レルナリ時ニ午前十時半ナリシ

是ヨリ帰京ノ途ニ就ントシテ人力車以下諏訪ニテ雇ヒ夫
ヨリ和甲炭ハ歩行シ今宵ハ和甲炭ニ泊セントス未ダ早
ケレモ午飯ヲ喫シテ上諏訪ヲ敷ス湖邊ニ沿フテ行ク
昨ハ夜中ナレハ分明ナラガリシカハ同ノ道路モ新道ニシテ
以前山麓ニ沿フテアリト云ハ同所ノ新建ノ家屋アリ
リテ湖中ノ小群ヲ驚ク家多ク下諏訪ニ近ツキタル處ヨ



ヨリ州上ヲ望メハ數波ノ小舟湖中ノ藻ヲ採ルヤリ天陰
リテ晴嵐タリト雖モ四方ニ山ヲ有ヒ其凡光最宜シ
サテ都訪湖ハ一名鵝湖ト稱ス是ニ傳詩ニ鵝湖山下稻梁
肥注ニ在信州鉛山縣西南十五里トアルヲ以テ信州ノ大湖
ナレハ之ニ擬シテ稱スルナレバ湖ハ太古ノ旧火噴火口ニ
シテ湖面ニ於テ海面ヲ抽クノ二千六百三十七尺アリト日本
地文學ニモヘタリ湖面ハ凡田クシテ古ハハ直径三里ト云
ヒタリシモ洪水ノ度毎ニ増リ七島ノ名ノミ残リテ皆陸地ト
ナリ今ハ東西ハ二里四丁南北ハ二里九丁周圍ハ四里廿町
余ナリト云其深サハ地誌提要ニ七尺ト云レハ是岐菴路記

ニ深き所七尋をかりありナド云ニ擬リタル概畧ノ數ナレバシ
又英人サトウ氏モ三十五英尺ヨリ深キハナシト記セリ是モ
亦同シトナルベシ

湖水ハ噴火坑ノ傳統ヲ備ヘタル四方乱山重疊ノ中ニアリ
テ景色ニ於テハ幽致アリ加レテ周辺ノ稻梁ハ實ニ肥
ハタレハ冬間ノ寒酷ナラサレハ真ニ無比ノ良地ト云ハキナリ
ハ湖ハ北ハ下流ヲシテ南ニ上流ヲ郡中州ヨリ西ハ伊奈郡
ニ發キテ湖水ノ源口ヨリ尾尾ト云ハ水西南ニ流シテ天龍
川トナリ伊奈郡ノ諸川ヲ合シテ遠江國ヲ貫キ掛塚ニ至
リテ海ニ入ル信州ヲ通過スルノ三十里餘遠州モ亦三十里餘

長流ナリ

東に上流訪しして高島城湖水ニ突出して其三方ハ湖水
ニシテ一方ニ陸ノ入口アリ凡四五丁ニシテ左右ハ以テ沼ナリ
カ今ハ水田モアリテ前ニ橋アリハ橋ノ下ヲ水ヲ峙ト云名処
ナリト云諸書ニ空海ノ和歌トテ衣ヲ峙ノ詠トセリ

此ニ海衣ヲ峙ノ詠トシテ富士の上ニ云々其の釣舟

空海ノ歌トアリシ地名考ニハ或若櫻宮天皇御製洲輪之海
衣裳崎半来而見諸者降土之岳漕海土之釣舟ニ云々
の歌といふが記多しれ人人口もあれハ暫記セリトア
リテ此處ニテ富士ノ影ノ湖水ニ映スルヲ見ルト云富士ハ

北面ヲ見ルベキナレハ空永山ナク必ス宜シカレベシ

今此本城ハ猿城トナリテ其址ニ公園ヲ設ケテ花木ヲ植タリ

ト聞シカ前ニ云フ如ク急キタレハ衣ヲ崎モ城中モモガリキ

諏訪ニテ不思議ト云フアリテ信濃地名考ニハ神渡津

作田耳裂鹿社乳雨根入杉塔ノ新蛙狩をニ様アリ

て此ニ云フ其地ニ云々トアリ諸国里人

ニハ上流訪の七奇宮殿 言其地の板壁ニ穴あり其を

つゝ社壇雨 毎年の刻ハ 根入杉 根ハ方ハ 温泉 湯中

の口を塞けて 氷橋 諏訪湖氷ニ付後ニハ 席以 時七

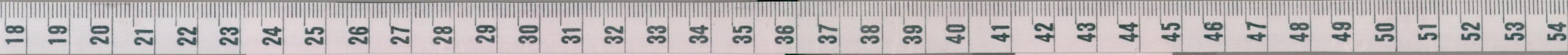
あり 十五以 毎年 富士の杉湖 ぬ上る富士 又信濃奇勝記ニハ

の記あり

神後 八栄鉦 神宮の内山作田 神田古月朝の櫓を植
浮島神 浮島川の右分て上流より 根入杉 杉社の
山射山 毎七月廿七の冬氷の刻 湯口佳湯 下流分給の湯
文字更リトイハ其事ハ一ツシテハ湖ノ氷ノイツ云ヘ
ルナリ

サテ其氷ノイハ湖冬ニ至レハ湖上鏡面ノ如ク全体ノ
氷トナシ是サト氏ノ記セル如ク湖ノ深カラサレニ因ル
氷期ハ^拜ニヨリ至速アリト維モ大約十二月ノ初メ氷結
シテ二月ノ下旬若クハ三月上旬マテ氷上ヲ歩ルイツ

得ル其厚サモ亦年ニヨリテ厚薄ナレハ八九寸ヨリ一尺
二三寸アリテ人馬皆氷上ヲ往來ス下流初ヨリ上流初マ
テ三度餘モ氷ノカノ一里餘ニシテ往來スルイツ得ルナレハ
便利ト云ハシ然レモ氷上ヲ歩ルニ神後又神後ト云イ
アリ一夜湖上大丸音アリテ物ノ聲キ通ルカ如シ是氷
結ノ後也三日若クハ五七日ノ以ナリ上流初ヨリ下流初ノ
方ニ幅五六尺バカリ大ナル木石ナドノ通りクハ如ク氷上ニマ
ト付テニ是毎年必スアリ是ヨリ後ハ氷破ル~~ル~~人初テ
往來ヲナスト云之ヲ其他ノ人ニ告スニ氷ノ音スルイハ波ノ
際ノミナラス音スル時ナラサレハ人歩ラヌ此音ノ絶ル際



ヨリ人涉ルリナシ知ラザル者氷ノ音スルヲ以テ氷ノ被ル
カト驚クベシト雖モ寒威甚シケレハ音益々高シト云

ハ神渡ノ場所ハ年ニヨリ変スト雖モ上流ノ方ハ変リナ
ク変ルハ下流ノ方ナリト云ハ神渡ノ場所ノ変遷ニ言
ツテ土俗ハ又豊凶ヲトスト云又ハ神渡ノイハレ既ニ神訪
明神ハ狐ヲ眷屬トシ給フ故ニ狐ノ所為ナリト云英人サト
モ此事ヲ聞クハニヤ旅行便覧ニ人民ハ氷ノ折ケルニテハ涉ラ
サルナリ是神ノ渡リテ宜キヲ告ルノ證ナリト信セリ或者ハ
又狐ノ事ナリトセリ云々ナリ

湖水中往ニ温泉涌出スル所ナリテ冬時ニ至ルハ其所ハ

氷甚ク厚ク或ハ全ク氷結セサル處アリト云里人等ハ其場
所ハ概ネテ知セリト雖モ他ヨリ至リタルモノハ或ハ誤リテ
入水スルノ事ナリト云

又氷上ヲ往來スルハ初メハ滑脱スルヲ以テ標ヲハキテ道
行スルモ一度雪ヲレハ常ク如ク草鞋草履ニテ往來セリ
馬ハスベリテ通行セズト記シタルモ尠ナカラサレハ是モ
雪ノ積リテ居ル往來セザルニヨラス客車モ郡長某ハ馬ニテ
上流ノ方ニ往ルニト云ハリ

湖中ノ魚類ハ鯉鮒鱒アカウヲ
ウツヒナリト云
未タ詳ニ檢セス
鯉魚
鱒魚
白ハエ
ヤナギ
魚
モロコバ
鱒
往來ノ其力放チテ



後較近多シト云小エヒ似タリニアリ蝦ニハハ一箱コレテ
別種ナシ鮭鱒故モ近年魚苗ヲ放チタルヲアリシモ遂
ニ繁殖セズト云

下流河ヨリ上流河ニテ河小鮮ヲ鬻クモ多シ鮎ノスン
ヤキナドハ割キテ串ヲサシ焼バカリニシタルモノモ鬻ケリ
故ニ客店若クハ飲食店ナドニテハ之ヲ購ヒテ焼テ客ニ供
ス甚便利ナリ又白ハエモロコハエナド串ニサシテ焼タルハ
リ焼ガレアリタリハ小鮮ヲ漁スル筈アリ田三尺四寸
ニ長二三尺ノモノ底アリテ中同ニ窓様ノ口ヲ作リタル
モノ多ク日ニ乾シタルヲミル車上ナシハ委詳ヲ尽ス能ハ

サレハ中ニ食餌ヲ入レ水中ニ沈メ魚ノ入タル以身上ルモノ
ナルベシ

其他漁具種々アリト聞シハ就中奇ナルモノハ冬間氷引
ト稱スルヲ以テオトス然レモ此漁法ハ湖水中ノ大小鮮ヲ
悉クスノ漁法ナルヲ以テ現今ハ禁ヒテナサシメズト云
其氷引ナルモノハ冬間氷ヲ長ク穿チテ其間ヨリ細ヲ水
中ニ下シ又其先キニ適宜ノ距離ヲ計リ氷ヲ穿チテ竹
ノ竿ニテ先ノ穿チタル方ニ細ヲ送りヤリテ或所モ如クシ
テ廣ク細ヲ曳キテ魚ヲトル時漁人ハ竿ニ長キ竹竿ヲ
挟ム若誤リテ水中ニ没スルヲアルモ竿ニテ氷ヲ支ヘ余ヲ



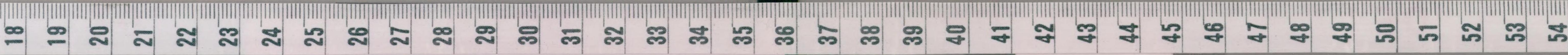
没入スルヲ免ル、ト云岐宿務記ニ皆をかくの如くもす
べを知りて春着漁りをせず、云々アリ然し其漁法はえ
様正法取ヨリト云へたり

又ハ湖中ノ水素を新ノ葦葎スル處アリ凡四五ヶ所アリ近
年誤テ火ヲ失シテ大騒キセシテアリテ葦湖也リ雨未好
事者往々時夜ニ小舟ニ乗り其處ニ至テ魚火ニテ楽ムモノ
アリト余雀ヒ^シ下郷坊ノ荷持ノ終ナリ今夕若シ滝田也ハ
案内シテ火ヲ見セシト云ヒタレハ其火ヲ消スニ如何ス
ルゾト聞シニ俄茲多クノ水カクルノミテ消滅セリト告ヘ
タリ又日ノ決ニ以テ日久人魚火ヲ見物セシトテ出らん二人

誤リテ火中ニ陷没セリ故ニ一友直ニ飛入テ之ヲ救ントセシ
ニ知テ諾ナタリシモノハ没シテ後園外ニ出テ何事モナカリ
ニ救ハシセシ友人ハ全身火火焼シタリシテアリト云へり



諏訪神社御守



下郷訪ニ入ルは地の上郷訪と接し西の長地村あり形訪此に
臨み北田和田岩上と境又市坊の七南北東西トモ六丁餘ニシ
テ丁數九百餘人口四千餘アリト云先づ秋宮ニ詣ス今形訪
ノ神ノ在ス所ナレハ也

は社ハ上郷村神社条ニ記シタル如ク近喜武神名下ニ南方刀美
神社ニ座トアル一坐ニシテ旧幕府ノ以ニ社領五百石ニテ
社人五人祝部一人モ其中ニアリ社傍モ五坊アリレト云何時ヨリ
カ春宮秋宮ノ二社ニ分レ湯ノ町ノ南ニアルヲ秋社ト云祭神
ハ上郷訪ニ同シク相殿神元事代主命ヲ合セ祭リ社殿ノ
奥ニ神父大己貴命ヲ祭レトモ社ハナクニテ祭式ノナリト云

七月一日春社ヨリ秋社ハ神奠ヲ移シ奉テ嶺晚マテは宮
ニ鎮坐アリ七月一日ニ神官騎馬ヲ祭ヒ俗人伎樂ヲ奏
シテ供奉シ舞ヲ二本旗彩十本鞍馬弓砲ノ器固
アリ又此日ニハ船祭トテ青黛ヲ以テ船ノ形ヲ作り事代主命
ノ御像トテ夫婦ニ神ノ像ヲ作りテ上ニ三三數百人ニテ之ヲ
舁キ社地ヲ三度回リテ秋社ニ至ル甚々喧キヲナリト云
又ハ時山祭トテ本社ヨリ三十丁餘ノ山中ニ仮屋ヲ作り芒ヲ
逆ニ着キテ廿六日ニ詣テ、祭祀シ廿九日ニ下山スルヲニシテ
最古雅ナルヲト云ヘリ

社前ニ大木華表アリ夫ヨリ故石アリテ其中央ニ欄ヲ設ケテ



園ミタニ大樹ノ根アリ根巨大ニシテ根際ニ石燈籠ヲ樹身ニ
抱ヘテ僅ニ其形ヲミル是所謂七奇ノ根入杉ナリ実ニ
一奇ナリ右ノ方ニ龍リ堂社務所アリ

社ノ中央ニ神樂殿アリ夫ヨリ数石アリテ拝殿アリ左右ニ
廊アリ社ノ左右ニ沖柱アリ神殿ハ二箇並列シ三方ニ墻
屏アリ又社内ニ所ニ末社アリ一ニセス拝ミテ西ノ門
ヨリ出テ、湯ノ町ニ至リ小湯ノ端ナル亀屋ニ休憩ス
以下御所ニ錦ノ湯小湯ニカノ湯ノ三所アリテ疥癩疔
気疥癬等ニ宜シト云サトノ氏ノ説ニヨリ錦ノ湯ノ温度ハ
百十五度小湯ハ百四十五度・四タニカノ湯ハ百十四度ハナリ



ト云

暫シ休憩シテ是ヨリ和田出嶽ヲ

超ヘ和田岫ニ泊セシトスレハ和田

マテノ荷持人ニテ雇フテ亀屋ヲ出テ春社ニ至ル秋宮ヨリ
其地区ハ度シト雖モ其地敷ハ劣レリ木華ヲ入レハ敷石
アリ中央ニ神楽殿アリ又数石アリテ拝殿アリ沖柱ノ二箇
並列スル左右ニ廊アリ秋社ノ如シ文左右ニ沖柱アリ末社
アリ

正月元日ホ刻ニ神樂ヲ社ヨリ春社へ遷奉ス信濃奇勝
録ニハ大祝五官騎馬ヲ装ヒ伎樂ヲ奏シテ供奉ストアリ



テ木曾路石所園舎とい正月九日祭禮ナシトアレハ神輿ニ
供奉シテ春社ニ遷シ奉ルマテナリヤ甲ノ賢回セサリシ
ハ遠懐ナリ

付社ハ北ノ坂ノ下リ口ニテ一坪ノ後東ニ向テ出ツレハ木率表
アリテ阪口ニ石階ヲ上レハ中山道和田坂ノ上リ口ナリ
是ヨリ荷おマ件ヒテ冬路ニ就ク谷川^{田川}ヲ左ニシテ行ク
ナ敷下ニシテ落合橋アリ過キテ阪ヲ上ルハ辺ハ途上ニ名産
ノホレクソ^{斑山}ノ小塊アリテ敷園ヲ得タリ思フニ終道
ノ為メ山上ヨリ出マ取リ来レルヨリ道路ニ散在セルナルハ
ニ阪ヲ上下シテ両山ノ峽ヲ過ク注連掛ト云地アリ下坂

榎橋ノ系ハ代
同ニナルベシ

ノ御柱ノ材木ヲ伐出シテ此地ニ持来リハ地ニ於テ注連カケ
テ夫ヨリ行列ニテ牽行ク故ニ名クト云

夫ヨリ十敷下ニシテ右ニ山阪ノ平ナル処アリ左ハ谷ニシテ
正面ニ山アル処ニ出ツハ辺ハ何方モ皆草山ニシテ樹木ナシ
唯右ノ山阪ニ松栲栗枹ナド少クアルノモ此地ハ元治元年
子年冬水戸ノ武田將軍其徒ハ百ボトヲ率ヒテ沓波山ニ
籠リシカ幕兵ニ克マタハスシテ間道ヲ高峯ニ出テ、京
師ニ至リ訴ル處マラシトシハ坂ヲ起ス其時幕命ヲ奉テ
松本侯^{勝平}高遠^{内藤}源^初初^初兵^初地^初既^初シ
テ要撃セシ処ナリ余カ産ヒタル荷おハ其当時人足ニ出テ



史記述記 五十
二ハ當時赤方史
ハ傳名セト不動
院金海ナリ

親シク其致闘ヲミタリトテ其終末ヲ決セル如左
其日ハ右ノ山年ニ松平ノ兵少ク下テ諏訪高遠ノ兵アリテ下
リ来ル俟ツ武田勢ハ兵備ノアルヲキ、テ前面ノ右角ニ觀
音堂アリテ小樹アレハ爰ニ冬ツテ在候セリ其時詔テ詔
訪ノ兵ハ獵物ヲ雇フテ右ノ平ノ樹間ニアラシメテ俟合セタ
ルイナレハ直チニ命狙撃セシメニ命申シテ山上ヨリ落チタ
リ是後ニ云今群慶ナル與 坊金海ナリシト然レハ金海
ノ落来テ赤方山下ニ達セガレニ武田勢ハ白刃ヲ振フテ山脚ヲ
巡リ直チニ諏訪高遠ノ陣中ニ切入リタリ爰ニ於テ一ニ
分ノ敵門アリシカハ一筆ニ切リマシラレテ三家ノ兵ハ數北

ニ致ハ山ニ入テ逃ル、モノ致ハ街道ヲ走ルモノアリテ瞬間
ニ悉ク下リタリマ、ニ於テ武田勢ハ遺留セシ槍銃器ボヲ
拾フテ致ハ棍業ノ致付タル旗ヲ立テ致ハ梅バケ附タル銃器
ヲ携ヘテ下郷坊ニ入り其夜ハ同賦ニ泊シテ翌日伊奈郡ニ
入りタリハ時詔訪家ニ於テハ兵ハ悉ク城中ニ引上ケ籠城
ノ準備ヲナシ致ハ妻子ヲ近在ニ移スナド故大混雜ナリシ
ト云ヘリ

前面ノ山腰ニ此戦闘ニ終シタル水戸人ノ為メニ石碑ヲ立テ
タリ街名ヨリハ約一丁餘ノ處ニ石垣ヲ築キ正面ニ高廿
四五尺存ナル碑ニ姓名ヲ彫リタリ横田巳之助岡本久次郎

恒三名の
鈴木若物
鈴木金蔵
大久保茂年

真坊金海其三名ナリ其左右ニ石燈籠ノ小ナルモノ敷
基アリ一見ニテ田圃ヲ巡リテ街道へ出ツト山上ノ観音
堂ノ例ラニ小山樹アリテ石碑様ノモノおぼしアリシカ余ハ上
ラズ

夫ヨリ敷丁ニシテ阪ヲ昇リテ植橋ニ出ツ立場ニシテお十

は糸原ノ中
ノ寄ル処ニ
アルハニ

戸アリ

諸講定宿
和日味植橋丁在
大黒屋惣次定
糸末より丸の目

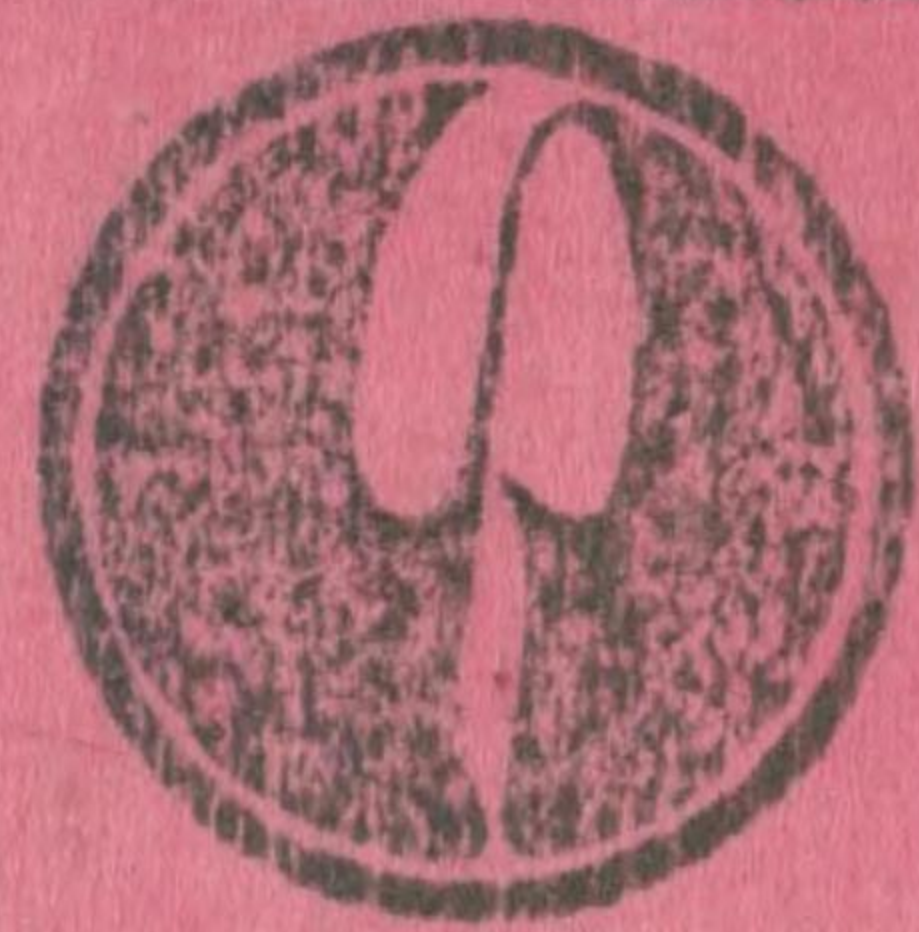
右側ノ大黒屋ニ入テ惣フ下坂訪ヨリ一里半ナリト云ハ際
小雨降来リタレハ暫ク俟合シタレハ遂ニヤマズ

雨ヲ冒シテ又数ス是ヨリハ植橋前ニ比スレハ阪路稍急ニ
シテ且長シ谷ヲ右ニシ岨ヲ左ニシテ上ル數十折シテ新
道アリテ垣ナレハ遠ク旧道ハ左山腋ニアリテ少シク峻シ
ト雖モ道近シト云フヲ以テ旧道ヲ冬ニ又十數曲折シテ
西併屋ニ至ル阪上ニアリテ三四石アリ茶店左右各一十
リ右側ノ家ニ入テ惣フ牡丹餅善哉難煮等アリト云木
曾衣ニハ風ニテ氷餅ヲ驚クイニエタレハ之ヲ受ヌコ氷餅
ハ上坂訪最宜シク和日味ニモアレドハ地ニテハ驚カス

ト云又地文學ニ四千四百五十七ノ上ニヨリテ全國中人ノ住
居セル地ニテノ最善ノ處ナリト

一新構社

中山道西もちや



山崎公吉

御嶽講社

東京昭光寺左
西京伊勢より右

暫クメ又落ス是ヨリ右ノ谷ニシテ左ノ岨ナリ小杉林セハ下

回ッ色クレハ阪ヲ下リテ谷ニ入ル樹林ハ皆矮樹ニシテ凡一二
丈ニ過キス後テ植物ニ富ミタリト唱道スル地ナレハ決谷
ニ入テ採集セント歎スル東餅屋ヨリ一俣雨烈シテ山中
ニ入ル終ハス然レハ路傍ノ草木ニ別ニ異ナリタルモノヲ
見ガリキ

ハ山間ノ谷ヲ行ク五六下ニシテ右ノ山阪ニ登ル是ヨリ樹
木ナク又左ノ山モ嶺ニ樹木ナシハ阪羊腸數折ニテ和泉
ノ頂ニ達スハ時雨愈急ニシテ道路滑脱ス幸フシテ郡界
ノ橋示ニ達セリ是マテハ諏訪郡ニシテ是ヨリハ小縣郡
ナリハ地ノ右ノ山上ニ大岩可クマアリテ都テ禁ナリ

左ノ山上モ亦草藪ニシテは雨中ナレモ里人等ハ馬ヲ牽キ
来テ草ヲ刈ルモノ数人アリタリ

は左ノ山上ニ登レハ四方眺望最宜シク富士モ見スルト聞ケ
トモ雨ノ為メ登ラザリシ其方位ハ左ノ如クナリト

北東ニ浅間岳アリ 北西ニ冠嶽信濃ノ山

正西ハ駒ヶ岳也岳 南ハ形分山

南東ニハハウ岳等科アリ

下田村ニ二八、二五、
和甲ニ二二、
ハ和甲嶺ハ中山道ノ最高處ニテ日本地文字ニハ五子二百七
十二尺サト一氏ノ旅行便覧ニハ五子三百英尺アリトモ工
タリ

嶺ヲ過キテニ直線路ヲ下ル凡ニ三丁ニシテ矮樹^林ニ入ル夫ヨリ
五丁ニシテ東餅屋ナリ其間道邊ニテハ難路ナリ木也
屋ニ入テ憩フ時ハ午後四時半ナリ木曾氷ニ東餅屋村ノ之
場ハ名ノミハ氷餅^{うさ}ト云フ人等七八人^たと云フ^{せき}
うさ^{せき}ト云フ^{せき}ト云フトアリテ其和ノ頃ハ東餅屋ヨリ西餅
屋ノ方宜シカリシトモハタレハ今モ人家ハ七八軒ナリ茶店ハ
木也屋土屋ナド御岳途中ナドノ宿泊スルモノアリテ西餅
屋ヨリハ美濃ニテ休憩モ宜シカリシ

因ニ舟持ノ法ニ西餅屋ハ維新後ハ甚妙法ニテ榎橋
辺ニテ一里餘モ下リテ装束ヲナセハ家ナドハ杪ナシト



惟モ食料ニ差支ナク餅ヲ賣ルモ大半ハ手作采ヲ用
 ニ故ニ往來ノ人ヲ俟テ治計ヲナスニ此レナリ之ニ及
 シテ東餅屋ハ里方遠ク耕スベキノ地ナケレハ往來ノ休
 泊ヲ俟テ生計ヲ營ムモノナレハ其体裁ハ宜シト雖モ其
 生計ハ甚苦シト云ヘリ實際ノ状ナルベシ

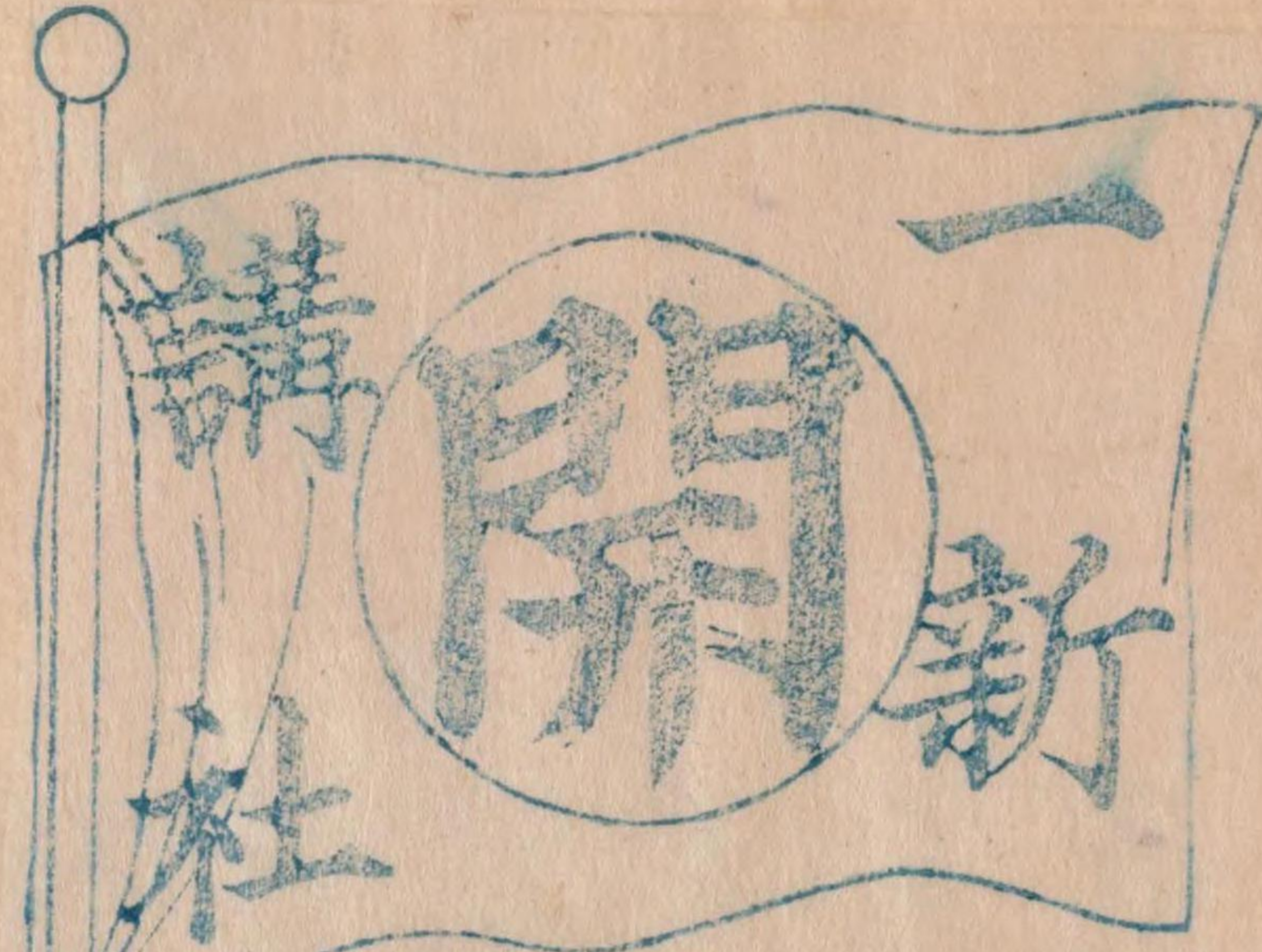


東餅屋ヲ出テ阪ヲ下ル山嶺西ニ比スレハ緩ナリト惟モ甚々長
 ク所ニ矮樹白樺山ナド多シ アレモ多クハ草野ニシテ山嶺西ノ
 阪路ニ突テラス荷持ハ谷ニ嶺西ノ樹林嶺東ノ樹林トモニ
 知事ノ以テ大樹アリテ天日ヲ見サレノ景況ナリシカレ四十
 年前ニ伐木ニシテ以来薪ニ合シク時々伐木ノ跡ノ邊ニ如ク大
 樹ナシト云ヒシカ實ニ樹林ト云フ程ノ地ハナカリキ
 阪ヲ下リテ凡一里半許ニシテ善中ノ一戸ノ家アリ薪運ニシテ
 未ダ全ク成ナラサレハ宿舎ノ人アリ是唐沢ノ入口ナリト云
 是ヨリ谷間ニ水田アリテ五六丁ニシテ唐沢ノ立場ナリ雨期リ
 ナレハ憩ハス大井村ヲ過ク既ハ既ニ昏クシテ左右唯人家



アルヲ見ルノミ漸クミシテ午後六時廿五ト和田駅ニ着シ
米屋ニ南入テ泊ス
昨夜ハ又道者数名及隣室ニ訪ノ人小火ヲ車ヒテ泊セシ
ヲ以テ放喧器ナリト併道者爾後ハ聞カガリシ雨終夜
過ス

中山道和田驛 練京より左がて
中山道和田驛
米屋宿後より
やうじ



諸講社御定宿

中山道和田驛

途中にて外宿くはさしめし
小宿に宿するも外宿に宿す

○九月二日今朝午前六時ニ至テ雨止ム然レモ未霽也前六時
三十分ハ駄ヲ蒞ス和田ノ古城ハ昨夜宿セシ家ノ後ニ瘠
リタル一小山ナリト云ヘリ駄ヲ出しハ格ヤリ及川ト云夫日
リ依田川ヲ起ヘ川ニ沿フテ行ク依田川ハ其源ヲ和田原ニ

和
宿
長
宿
二
三
四
三
九



上丸子村ヲ表シテ中丸子下丸子ヲ過キ長瀬村ニ至ル所ヲ
離レタル一村落ナレバ洋服店ナドアリテヤ、繁華ナリ
夫ヨリ田圃ヲ過キテ依田川ノ右ニ沿フテ行クナ數丁ニシ
大屋村ノ入口ニ川アリ千曲川ナリ橋ヲ涉リテ大屋村ナ
リ二三丁ニシテ北園街道ニ出ツ長官ヨリ大屋村ニ至ル
半也ト云

大屋村ヨリ街道ヲ行ク數丁ニシテ海野ニ至ルハ地ハ數丁巻
ヲナシ小繁華ノ地ナリ左側ニ白鳥明神ノ社アリ海野小太
原城址ハ四丁福東北ニアリト云ハニ至リミズ是ヨリ約半
里餘ニシテ田中ニ至ル其間小川ニ三アリ鉄道徳路左ニ

アリシカ田中ノ數丁前ニ右ノ方千曲川ニ沿ヒタル方ニ轉ヒ
タリ

田中ニ入テ二三丁ニシテ右ノ方ニ坂アリテ下レハ停車場ナ
リ其前ニ新茶店甚々拙ケレモ荷物モアリテ停車場ニ
至リテハ不便ナレハ入テ憩フ時午前十一時十分ナリ切符ヲ
購ヒ午飯ヲテ準備既ニナル

午前十一時 外ノ汽車ニ乘シテ田中ヲ數シ小諸代田ノ
停車場ヲ經テ輕井沢停車場ニ着ス午後 時 外直千ニ
出テ荷物ハ馬車鉄道會社ニ預ケ停車場脱ノ茶亭ニ入テ
暫ク休憩ス

甲申 五、七五
七清ハ
小諸ヨリ 五、七五
比代田ハ
北代田ハ 七、七五
北代田ハ
計一九、二五



横川ヨリ
三三五
杉井由

午後二時五分馬車に乗シテ輕井沢ノ敷ニ碓氷嶺ヲ過ル
例ノ如ク二三ヶ所馬ヲ休メテ坂ヲ下ル際前車ノ馬具
ニ破損ヲ生シテ車ヲ止メタシハ余等ノ乗レル馬車トモ止ムヲ
得ヌ車ヲ止ムタリ暫ク躊躇シテ後退セシトセシモ遂ニ後ス
ル能ハス其間十數分ヲ延スセリ故ニ前車ヲ移シテ余等ノ
車ニ牽セテ横川ニ達セリ汽車敷車ノ時間僅ニ十分前十
リ走リテ萬屋ニ至リ一方ハ荷物ヲ受取ラセ一方ハ切符ヲ
購セテ漸ク三分前ニ車ヲ上セリ直ニ乗車シテ午後五
時五十分ト横川ヲ敷ス甚タ危カリシク先ツ同ニハ達セ
タリ

横川ヨリ
三三五
杉井由
女中
四、五〇
飯塚ハ
五、〇〇
高崎ハ
一、五〇
横川ヨリ
一八、〇〇

磯部 杉井甲安中飯塚等ノ信車場ヲ過ルキ高崎停車場ニ
至テ例ノ如ク車ヲ乗替ヘ新所本宿深クテ延テ然レ信
車場ニ入レハ前田利同伯夫人其他ヲ伴ヒ乗車セリ
前キニ東京ヲ敷セシ日大船停車場ニテ邂逅セシニ又
此日同車セシハ甚奇遇ト謂フベシ同氏ハ昨日荒川ニ
香魚ヲ漁セシカ甚不漁ニテ僅カ尾許ヲ得タリ諸サシ
タリ敷所ノ停車場ヲ過キ上野停車場ニ達セシハ午後
九時廿五分ナリシ

夫ヨリ入車ヲ備フテ家ニ帰リタル舉家平安無事一節
モ相州三崎ヨリ一昨八月三十日帰京セリト云

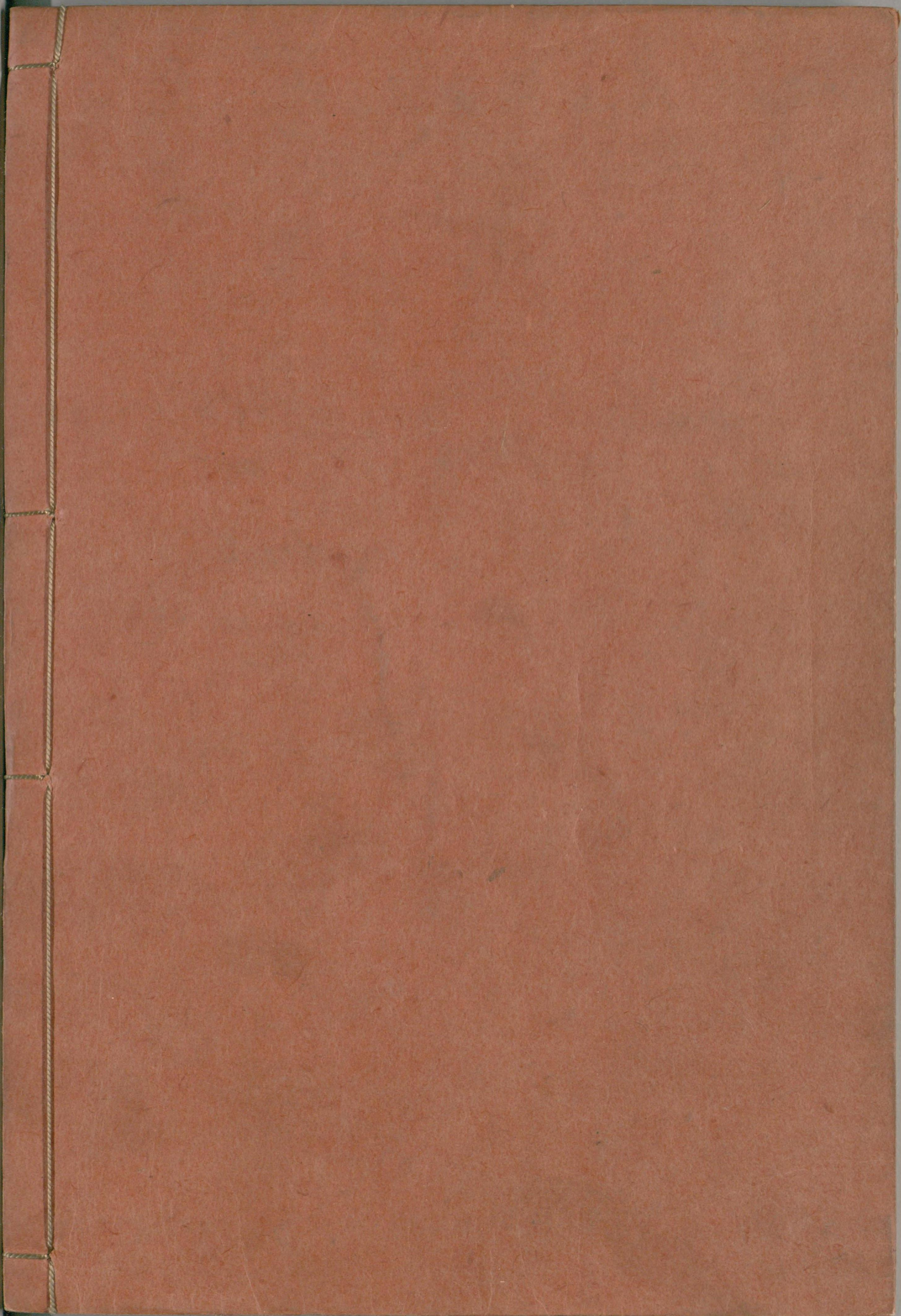


848
200



国立国会図書館 タイトル『吉蘇日記』 請求記号 848-200

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『吉蘇日記』 請求記号 848-200

ガラス使用